

シンポジウム | 特別講演

## 学術・在宅歯科診療検討合同シンポジウム

### 在宅（訪問）歯科診療を科学する

座長:水口 俊介(東京医科歯科大学大学院高齢者歯科学分野)、菅 武雄(鶴見大学歯学部高齢者歯科学講座)

Fri. Jun 22, 2018 9:40 AM - 11:10 AM 第1会場 (8F 大ホール)

#### 【水口 俊介先生略歴】

1983年 東京医科歯科大学歯学部歯学科卒業  
1987年 同大学大学院歯学研究科修了・歯学博士  
1989年 同大学歯学部高齢者歯科学講座助手  
2001年 同大学大学院口腔老化制御学分野講師  
ロマリング大学歯学部客員教授  
2006年 同大学大学院高齢者歯科学分野助教授  
2007年 同大学大学院全部床義歯補綴学分野教授  
2012年 同大学大学院高齢者歯科学分野教授  
日本咀嚼学会理事長  
日本義歯ケア学会理事長  
日本老年歯科医学会常任理事，専門医・指導医  
日本補綴歯科学会理事，専門医・指導医

#### 【菅 武雄先生略歴】

1990年 鶴見大学歯学部卒業  
1990年 鶴見大学歯学部補綴学第一講座・臨床研修医  
1991年 鶴見大学歯学部補綴学第一講座・診療科助手  
1991年 鶴見大学歯学部補綴学第一講座・助手  
1996年 鶴見大学歯学部高齢者歯科学講座・助手（移籍）  
2010年 鶴見大学歯学部高齢者歯科学講座・講師  
日本老年歯科医学会 理事，指導医・専門医，摂食機能療法専門歯科医師，在宅歯科診療等検討委員会委員長  
日本補綴歯科学会 指導医・専門医  
日本咀嚼学会 評議員・編集委員会委員  
日本摂食・嚥下リハビリテーション学会 評議員  
日本口腔リハビリテーション学会 評議員  
介護支援専門員，横浜市介護認定審査会委員

#### 【抄録】

要介護認定者数は平成12年の218万人から平成27年には3倍の608万人となっており，いわゆる在宅診療のニーズもますます増えている。また高齢者の残存歯数は増加しており，う蝕や歯周病など口腔内はますます複雑になっている。必然的に訪問歯科診療のニーズは高まるが，その現場での臨床判断に関するエビデンスは十分とは言えない。

本日のシンポジウムでは，まず基調として本学会の在宅歯科診療等委員会委員長の菅 武雄先生に，日本歯科医学会と本学会のメンバーで行われている在宅歯科医療に関する検討会の結果報告を含めた今後の概観を述べてもらい，福島先生にはご専門の立場から，今後問題になる高齢者の根面う蝕や歯磨剤のフッ素濃度の変更やサホライドの再評価等のUp to Dateな話題について解説していただく。そして猪原先生には歯科訪問診療の経験が浅い方々への有用な情報提供をしていただく。本シンポジウムが訪問歯科診療の適正化と活性化に貢献できればと考える。

## [S1-3]ビギナーのための“歯科訪問診療”事始め

### —生活を支える医療となるために—

○猪原 健<sup>1</sup> (1. 猪原歯科・リハビリテーション科)

【略歴】

2005年 東京医科歯科大学歯学部卒業

2009年 同大学院医歯学総合研究科顎顔面補綴学分野修了, 博士(歯学)

2010年 日本大学歯学部摂食機能療法学講座非常勤医員

2010年～2011年 アルバータ大学リハビリテーション学部言語聴覚療法学科 Visiting Professorとして留学

2012年 猪原歯科医院(現 猪原歯科・リハビリテーション科) 副院長(現職)

2013年～2015年 広島県歯科医師会介護・福祉医療部委員

2015年 脳神経センター大田記念病院非常勤歯科医

介護支援専門員

日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士

日本顎顔面補綴学会評議員

日本補綴歯科学会・日本摂食嚥下リハビリテーション学会・日本静脈経腸栄養学会会員

歯科訪問診療を行う際の最大のネックはなんだろうか。やる気もある, 高齢者診療の技術もある, しかし外来が忙しくて訪問する時間を確保できず, 訪問依頼もほとんどない…。このような先生方もきっと多いのではないだろうか。

在宅歯科医療の基本的考え方 2016(日本老年歯科医学会)には, 「在宅歯科医療は外来診療の持ち込みではなく, 構築するものである」とある。また訪問診療は「長期的な医療計画のもとに実施される, 外来診療とは異なる診療」とされている。つまり, 在宅への歯科訪問診療では, われわれの外来診療の考え方を大きく変える必要があり, それができないと大きな困難に直面することになる。もちろん患者にとっては, かかりつけ歯科医による診療が外来から訪問にスムーズに移行することが最も望ましく, この二律背反とも言うべき状況こそ, 歯科訪問診療の普及における大きな課題と考える。本講演では, これらの解決のヒントを探っていきたい。